

都心と臨海副都心とを結ぶ公共交通に関する基本方針

－ BRT を中心とした中規模な交通機関の必要性 －

平成 26 年 8 月

東京都都市整備局

目次

1	目的	1 ページ
2	各地区の交通需要について	2 ページ
	(1) 総論	
	(2) 勝どき・晴海	
	(3) 臨海副都心地区（豊洲地区を含む。）	
	(4) 都心部（東京駅～新橋駅、虎ノ門）	
3	基本方針	6 ページ
	(1) 整備に向けた計画策定	
	(2) 事業協力者の公募について	
	(3) オリンピック・パラリンピック対応	
4	今後のスケジュール	8 ページ
付録	<用語解説>	9 ページ

1 目的

本方針は、都心から勝どきを経由して臨海副都心に至る地域について、将来予想される交通需要に適した、中規模な公共交通機関の整備に向けた都の考え方を示すものです。

具体的な検討事項やスケジュールなど都が枠組みを示し、広く民間の英知を結集するとともに、必要に応じ関係機関などを構成員とする協議会を設置し、当該地域の公共交通網形成計画を策定することも視野に入れて取り組むことで、早期に具体的な計画策定と運行に向けた準備を着実に進めることを狙いとしています。



写真1 臨海部全域

2 各地区の交通需要について

(1) 総論

勝どき・晴海・豊洲・臨海副都心などの地区は、都心から約6 km圏内に位置し、業務集積地として経済活動の一翼を担うとともに、MICE*の誘致や国際観光機能の強化、また、都心における貴重な住宅地としての開発など、新たな東京の顔としての発展が期待されている地区です。

一方で、都心との交通手段が路線バスや自主運営のシャトルバス等に多く依存しているなど、鉄道へのアクセスが不便な地域があるとともに、一部の鉄道駅及びその周辺では、朝夕のラッシュ時に混雑が生じています。

すでに、住宅地をはじめ業務、商業などの複合開発が進行しているとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピック選手村の住宅等としての後利用も見込まれることから、今後、公共交通に対する需要が更に増加することが予想されます。

一方、都心部では、東京駅から新橋駅・虎ノ門周辺にかけて行われているいくつかの開発事業において、バスターミナルの計画も併せて進められています。

環状第2号線の整備を契機に、職住近接や、業務における都心とサテライトとしての機能分担、国際観光機能へのアクセスとしてのつながりなど、都心と勝どきから臨海副都心に至る地域との結び付きは、より強まると考えられます。

これらのことから、既存の交通不便地域を解消し、更には今後増え続ける需要にも対応するため、都心と臨海副都心とを結ぶ公共交通を早期に整備していく必要があると考えます。



図1 対象エリア

(2) 勝どき・晴海

—鉄道不便地域を補う、新たな公共交通機関の導入—

本地区は、鉄道駅へのアクセスが不便な地域であるとともに、唯一の鉄道である都営大江戸線勝どき駅*では朝夕のラッシュ時、駅施設内や歩道で混雑が生じています。

2008年では、鉄道・バスを主とする移動の発生集中が1日当たり約16万トリップエンド（以下「TE」という。）生じています*。

今後は、オリンピック・パラリンピック開催までに新たに2万人を超える規模の住宅等の開発が予定されていることに加え、オリンピック・パラリンピック大会の選手村の後利用を含め、1万人を超える規模の住宅等の整備が予定されています。また、将来的（2030年）には、約30万TEの発生集中が生じることが見込まれています。

これらのことから、現在明らかになっている開発計画の需要に対応するため、新たに担う中規模な交通機関が必要だと考えられます。



写真2 勝どき駅出口付近混雑状況



図2 選手村イメージ（立候補ファイルより）

*勝どき駅では現在、改良工事を実施中

(3) 臨海副都心地区（豊洲地区を含む。）

—既存交通機関を補完し、魅力ある中規模な交通機関の導入—

豊洲地区では、豊洲新市場の開場後、市場関係者をはじめ、国内外からの多くの来街者により、新たな活気・にぎわいが創出されていくものと見込まれます。

有明地区では、住宅開発が進むとともに、オリンピック・パラリンピック競技会場の後利用により、スポーツ施設等として活用されることが期待されています。

また、臨海副都心のその他の地区では、MICEの誘致や国際観光拠点の実現など、今後も東京の象徴的な近未来的都市として整備が進むことが予想されており、こうした地区の魅力を高めるためには、既存交通機関を補完し、地区内の移動を容易にする交通や、観光目的で訪れる人たちが街を楽しむための魅力ある新たな交通機関が必要です。



図3 臨海副都心開発状況（東京都港湾局資料より抜粋、一部加工）

(4) 都心部（東京駅～新橋駅、虎ノ門）

—臨海部へのアクセスを可能にする結節点の形成—

山手線東南地域に当たる東京駅から新橋駅・虎ノ門付近までにかけては、いくつかの大規模開発が進められており、これらの開発の中で、まちづくりの一環としてバスターミナルの計画も進められています。

こうした新たなターミナルは、これら開発地が有する本来交通需要への対応に加えて、都心部から各方面へのアクセスを可能にする有用な結節点であると考えます。

勝どき・晴海地区や臨海副都心へのアクセスを考える上では、環状第2号線で結ばれるこうした都心部の結節点を活用することが重要と考えます。



図4 銀座6丁目再開発イメージパース

3 基本方針

(1) 整備に向けた計画策定

都は、恒常的な需要に対応するため、環状第2号線を中心として、都心と臨海副都心とを結ぶ、魅力ある中規模な交通機関（BRT*等）の整備に向けた具体的な検討を始めます。

都は交通不便地域の解消、恒常的な将来交通需要、周辺道路交通への影響、社会情勢の変化などを見極め、BRTに代表される中規模な交通機関のうちから、必要な交通機関、各種サービスレベル（運行・施設・料金等）等について、公募する事業協力者とともに、具体的な計画策定及び関係機関との調整を行います。

この具体化の中では、都が進めている「水素社会の実現に向けた東京戦略会議」など、水素社会の実現に向けた取組などと連携し、新たな技術の導入も積極的に進めていきます。

また、既にBRT整備に向けた取組を進めている中央区の検討結果も踏まえ、同区と連携して進めていきます。

あわせて、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき必要に応じて、関係機関などを構成員とする協議会を設置し、当該地域の公共交通網形成計画を策定することも視野に入れて取り組みます。

(2) 事業協力者の公募について

将来の事業化に先立ち、必要な交通機関、各種サービスレベル（運行・施設・料金等）の検討を行うための事業協力者を公募します。

都は、実際の運行事業者が有する経営・運行等のノウハウを活用し、より実現可能性の高い計画を策定することを目的として、本方針公表後、速やかに事業協力者の公募を行います。

事業協力者には、都が行う交通機関やルートを選定に関わる技術的情報提供のほか、各種サービスレベル（運行、施設、料金等）の計画策定を委託します。

なお、運行事業者の公募は2015年春を目途に行い、事業協力者が事業者になることを保証するものではありません。

(3) オリンピック・パラリンピック対応

都心と臨海副都心とを結ぶ公共交通機関の運行を2019年度内に開始することを目標とします。また、大会開催期間中は臨海部の会場周辺等へのアクセスや観光需要にも対応する柔軟な運行計画を検討します。

2020年オリンピック・パラリンピックを見据えて当該地域の更なる発展を誘導するため、整備目標年次は、テストイベントが予定される2019年をめぐり、その実現に向けた取組を進めます。

大会期間中は、観光需要や臨海部の会場周辺へのアクセスにも対応するため、迂回ルートでの運行を検討するなど、柔軟な運行計画となるようにします。

都は、おおむね2014年度内に基本計画を取りまとめ、必要な手続及び関係区、関係部局、各管理者との調整を進めていきます。

4 今後のスケジュール

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
手続き	★基本方針公表 (アセス手続有の場合)	★事業計画策定	車両準備 届出等手続き	▲都市計画決定		●テストイベント	●オンラインバックグラウンド
整備		アセス現況調査	アセス予測・評価		インフラ工事		
運行	★事業協力者公募	★事業者公募				試運転 ★運行開始	
その他			▲環2開通 ▲新市場建物竣工				

■ 2014年度スケジュール

- 8.29 「都心と臨海部とを結ぶ公共交通整備基本方針」策定・公表
- 8.29 同方針に基づく「事業協力者」公募
- 10月下旬 「事業協力者」の選定・協定締結
- 3月末 基本計画の策定及び事業者の公募開始

■ 2015年度スケジュール（予定）

- 第1四半期 事業者の選定・協定締結
- 事業計画の策定

以後、諸手続及び関係機関との調整

■ 2016年度以降の見込み

- 2017年度頃 インフラ整備工事着手
- 2019年度内 運行開始
- 2020年度以降 本格運行

<用語解説>

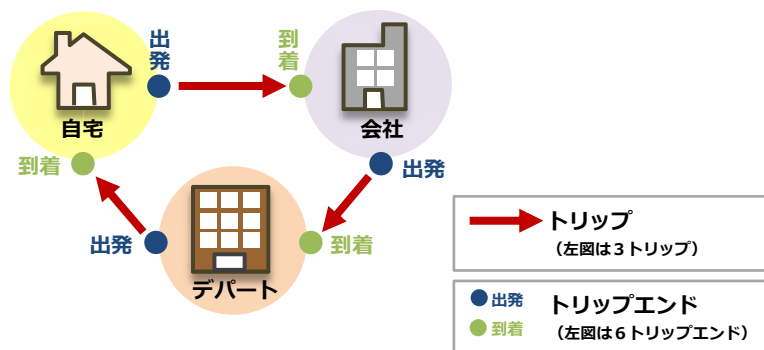
◆ M I C E

企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称です。

◆ トリップとトリップエンドについて

1つのトリップにおける出発地と到着地を「トリップエンド」といいます。1トリップには発と着の2つのトリップエンドがあります。

図でみると、トリップ数は3、トリップエンド数は6となります。



◆ B R T

B R Tとは、「Bus Rapid Transit」の略です。連節バス、ICカードシステム、道路改良等により、路面電車と比較して遜色のない輸送力と機能を有し、かつ、柔軟性を兼ね備えたバスをベースとした都市交通システムを指します。

(出典：東京の都市づくりビジョン（改定）)